

令和4年度揖斐川町教育委員会事務事業点検評価・外部評価

外部評価書

---

揖斐川町教育委員会外部評価委員会

## 外部評価書

### 外部評価の総括

#### 1 経過

令和4年度揖斐川町教育委員会事務事業点検評価・外部評価にあたっては、事務局（学校教育課・社会教育課）が主管する全194事業（学校教育課105事業、社会教育課89事業）を対象に、実施状況を精査し事業に対する成果と課題を提言した。

外部評価を取りまとめるまでの手順は以下のとおりである。

- (1) 事務局は担当する全事業について「教育委員会事務事業点検評価調書」を作成し、事業点検を行った。
- (2) 事務局は全事業のうち「令和4年度揖斐川町教育の方針と重点」を踏まえ、経常的経費を除く主要事業について事業点検を行い、その結果を「自己評価書」に取りまとめた。
- (3) 揖斐川町教育委員会から委嘱を受けた外部評価委員3名は、事務局から提示された「教育委員会事務事業点検評価調書」並びに「自己評価書」に基づいて実施状況を精査した。
- (4) 外部評価委員会（2回）を開催、事務局からの意見聴取を経て「外部評価書」を取りまとめ提出した。

#### 2 総論

- 評価システムの導入から15年目、事務事業評価が主体的に組織的に全職員で実施されている。事業を執行する担当者が具体的な実態を把握し、様々なデータや情報をもとに成果と課題を明らかにし、次年度の事業と予算に生かすことが定着している。評価を公開し、広く町民等に事業内容を理解してもらったり、事業の啓発に繋いだりすることを一層推進することを期待する。
- 事務事業を振り返る視点は、重点に掲げた「全職員が協力して活力ある学校経営をする」「たくましく生きていくための基盤となる学力の育成を図る」「『生涯教育』『家庭教育』等各種社会教育活動の推進」の3点である。特に、事業の公平性・透明性・公開性を重視し、保護者や住民の立場に立って目標と達成値を明確にし、第2次総合計画に生かす等、長期の見通しをもって各事業が推進されることを期待する。
- 児童生徒の実態を踏まえたうえで、揖斐川町の自然、文化、産業、さらには各校区の特色を生かした教育が充実するよう事業の質を高め、各学校が自校の特色を生み出している。そのことにより、郷土を誇りに思い、たくましく人間関係を築く児童生徒の育成ができています。またタブレット端末をはじめとするICT機器の効果的な活用も導入以降着実に進んでおり、今後も引き続き今日的な学校課題に向けての教育推進を期待する。
- 町民の生涯学習のニーズに対応するために様々な事業を行い、成果を上げている。生涯学習の拠点として、地域交流センターを核として、今後さらに、地域人材や子育て支援センター、公民館等が連携して、子育て家庭への支援体制を充実させることを期待する。
- 揖斐川町が、いびがわマラソンをはじめスポーツ振興のために、幼児からお年寄りのニーズに応えて、様々な種目や内容を吟味して事業を行っている。全国的にマラソンブームがやや下火になりつつある中、特色ある大会として多くのランナーから高い評価を得ている「いびがわマラソン」を核として、今後さらに地域振興につながる取組の工夫を期待する。
- 教育委員会では、ホームページ、広報等を活用して、事務事業等を積極的に分かりやすく公開している。今後は、子育てのしやすさ、教育の充実について広くアピールして、子育て世帯を増やし教育のさらなる充実や地域振興につながることを期待する。

区分	重点・力点	外部評価委員会による評価
学校教育	<p>全教職員が協力して活力ある学校経営をする。</p>	<p>令和4年度の新規事業「地域学び塾」「中学生と町長が語る会」では、目的を明確にした事業展開により、中学生の地域での居場所づくりや、町行政への関心の高まりなど、初年度から高い成果を得られており、今後も内容・方法等をさらに工夫しながら一層充実させていきたい。</p> <p>学校施設・設備の整備については、GIGA スクール構想の推進による一人一台タブレット PC の貸与、高速ネットワーク環境の整備、電子黒板等、今日的な課題に応じて手厚く整備されている。また、町教委の指導を踏まえた各学校の取組により、タブレットを有効に活用した学習も充実しつつある。一方、ICT 機器の維持管理、更新には巨額の費用が必要となるため、国の事業、予算措置などの動向について情報を得て、補助等を活用しながら計画的に進め、児童生徒の学習環境を保障していきたい。</p> <p>校舎、教室、教育備品等の設備については、必要度を測りながら順次修繕等を行い、引き続き適切に維持管理していく必要がある。また今後、児童生徒数が減少していくことを見据えて、学校の設置管理について町全体で再考する余地がある。</p> <p>給食費、修学旅行費の補助については、6年目となり定着している。全国的にも実施自治体が増えてきている様相であるが、揖斐川町はそのさきがけとなった。子育て世代への経済的支援として大変効果があるので今後も継続実施していくことが望ましい。</p>
	<p>一人一人の夢の実現に向けたくましく生きていくための基礎となる学力の育成を図る。</p>	<p>児童生徒の県外・海外派遣事業については、コロナ禍が一定の収束を見たことにより再開され、将来の揖斐川町を担う児童生徒たちに多様な価値観や豊かな人間性を育むことに寄与している。今後児童生徒数は減少していくが、定員は据え置き、少しでも多くの子たちに機会が与えられることを大事にしていきたい。</p> <p>少人数指導助手、教科専門指導員、スクール相談員等、各学校での教育活動、特色ある取組を人的に支援する事業については、児童生徒の個に応じた学習指導や、教育相談対応を充実させる大きな力となっている。ALT等外国人語学教師の配置では、学習指導要領に新たに位置づけられた小学校での英語指導の円滑な推進がなされている。学校教育現場に求められる教育ニーズや、児童生徒一人一人の特性は、今後より一層多様化していく様相にあり、そうした各ニーズに適切に対応できるよう、学校への人的支援は今後も必須である。</p> <p>特別支援教育の支援に係る、就学奨励費、支援員の配置などの事業については、昨今ますます高まる特別支援教育に対するニーズに対応するために、今後も重要になってくる。障がいの内容や、児童生徒の実態も多様化しており、一人一人の様態に合わせた適切な支援を個別に講じていくためには、費用面、人的支援等あらゆる方面からの支援が必要である。今後も該当児童生徒や家庭、学校のニーズに応じて、特別支援教育の充実に向けた事業は拡充していきたい。</p> <p>その他、芸術鑑賞や野外活動など、さまざまな面から学校教育を支える事業が実施されており、教育活動の質を全般的に向上させる各事業について、今後も精査をしながら着実に実施していく必要がある。</p>

	重点・力点	外部評価委員会による評価
社会教育(生涯学習・文化)	生涯学習の推進	住民主体の地区公民館活動を通して、自治意識の高揚と連帯感の醸成を図ることができている。近年は、コロナの影響で自粛されていた活動も徐々に再開されており、「地域の絆」を深める場所として活かせる環境づくりを進めながら、地域住民が主体となって、幅広い年齢層が利用する持続可能な事業展開に努めていくとよい。
	読書活動の推進	幼少期のうちに読書の楽しさを伝え、家庭での親の読み聞かせにより、子どもの読書習慣を育てることは、心の醸成に寄与する大切なことであるとする。 子どもの読書環境を整え、心豊かな成長を促進するためにも、引き続き子ども読書推進事業を実施されたい。
	青少年育成活動の推進	青少年の健全育成については、青少年育成町民会議を中心に、家庭・学校・地域社会が深く関わり合いながら、「街頭啓発」や「わが家のあったか約束」など全町的に取り組まれている。また、青少年育成町民大会では、児童生徒の活躍の場として、令和4年度は小学生、高校生による発表の場が提供されている。子どもの人数が減少している状況ではあるが、今後も関係機関・団体と連携を図りながら、地域の実情に応じた活動に取り組み健全な青少年の育成を推進されたい。
	人権教育の推進	社会人権同和教育事業では、人権意識の向上や同和問題の正しい認識を図り、思いやりのある社会を形成するために啓発活動が実施されている。今後も人権教育事業を推進するとともに、関係機関と連携しながら、広報活動も展開するなど、研修等参加者の裾野を広げ、広く町民への啓発を図られたい。
	住民の文化活動の振興	町内の文化活動を支援することにより、「豊かな人間性と郷土愛を育むまちづくり」に寄与している。町文化協会を中心とした地域住民による自主的な文化活動の輪が更に広がることを目指し、引き続き支援を望みたい。「アートいびがわ」などの町民参加型の文化活動は、文化芸術振興、地域交流センターはなももの利用促進を図るため、今後も引き続き開催するとよい。
	文化財や伝統芸能の保存・伝承及び活用の推進	子ども歌舞伎や太鼓踊りなど、無形文化財の保存・伝承は、教育資源・生活資源・観光資源として大変重要であり、人口減少、少子高齢化が進むにつれ、後継者不足は喫緊の課題である。町としては、保存会等の団体への支援を継続し、発表の場の提供やPR活動、学術的な調査、後世に伝えていくための人材育成支援等を推進していくとよい。
	親しまれる社会教育文化施設の創意ある運営の推進	地域交流センターはなもものは、生涯学習、文化芸術振興、観光交流の拠点として、より多くの方に利用していただけるよう、創意工夫して運営をしていただきたい。また、新しいびがわ図書館は、木育の拠点施設として、小学生を対象とした木育プログラムを展開し、「カプラ」を常設していることから、今後も、木を好きになってもらい、自然との関わり方を積極的に考えられる豊かな心を養う取組を継続していくとよい。

	重点・力点	外部評価委員会による評価
社会教育（スポーツ）	地域スポーツの推進	<p>スポーツ推進委員の活動は、地域スポーツ活動の推進役として重要であると考えられ、推進委員会としての活動や地区公民館での活動が、生涯スポーツの推進に寄与するものと考えられることから今後も委員会は関係機関と協調し活動されることを期待する。</p> <p>町体育協会活動は、生涯スポーツ活動における中核的組織であるが、少子高齢化により、構成員や団体の減少が加速しているが、町内のスポーツ振興推進のため継続的な支援は必要であろう。</p> <p>新たに、スポーツ推進審議会が設立されたことから、部活動の地域移行等の課題も含めて、町民がスポーツに親しみ、健康で幸せな生活が営めるよう、関係機関・団体が連携してスポーツ環境づくりを推進していくことを期待する。</p>
	スポーツ施設や環境の整備充実	<p>健康広場のトレーニングルームでは、体力づくり、健康増進、生活習慣病の予防など、生活の充実を求める利用者により安定的な施設利用となっていることから、指導スタッフ確保及び老朽化した機器の計画的な更新も含め、持続可能な体制の確立を希望する。また、施設利用者を対象とした各種教室プログラムにおいても、住民ニーズの把握に努め、魅力ある事業展開を期待する。</p> <p>なお、指導者の人材確保に苦慮しているようであるが、町内外問わず人材の掘り起こしを検討されたい。</p>
	スポーツによる地域振興	<p>いびがわマラソンは、3年ぶりの大会開催となった。紅葉と清流が彩る風光明媚なコースが人気で、地域ぐるみの応援や中学生・高校生ボランティアの活躍による大会運営等が多くのランナーに好評を得て多くの賑わいをもたらしてきた。しかしながら、フルマラソンのコースの一部において、通行における安全性が確保できないことからハーフマラソンのみの開催になっている。ランナーからはフルマラソンの復活を望む声が多いため、関係機関との協議も含めて、早期のフルマラソン復活に尽力願いたい。</p> <p>今後もしびがわマラソンを通じて地域振興やスポーツ振興を推進していくことが大切と考える。</p>